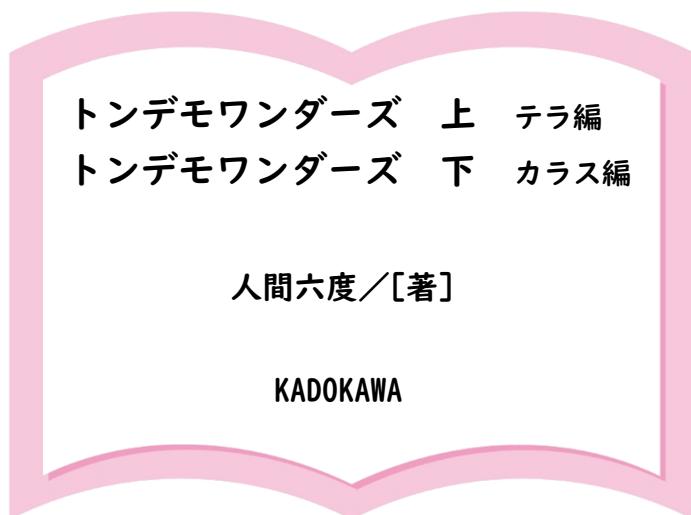


令和7年度 読んでみたい！ 読んでほしい！

堀川高校生のコメント集めました！



今年も、京都市立堀川高等学校生徒のみなさんから「読んでみたい本」「読んでほしい本」を募集し、選書・購入しました！その際に生徒の皆さんからもらったコメントをご紹介します。



トンデモワンダーズ 上 テラ編
トンデモワンダーズ 下 カラス編

人間六度／[著]

KADOKAWA

「人生はゲームとは違う」進路相談で、そう担任に告げられた主人公テラはある日、不思議なイキモノ「ワンダー」を倒すクエストに夢中な同級生のカラスに出会い、共にクエストを攻略していく。陽キャと陰キャ。正反対な2人がぶつかり合い、手を取り合う時に見つかる「本当の自分」とは。受験勉強に苦しむ僕にとって「成功も失敗も全部大好きでいいじゃん」という言葉はかけがえのないものでした。



中東での問題が、はじめは「ガザの人道危機」と語られていたが、しだいに政治的問題として報道され、その裏で失われる命や人々の苦しみは埋もれてきていると思います。もちろんいま起こっていることを知るのも大切ですが、その経緯やいろいろな視点から真実を知り、関心を向け直してもよいのではないでしょうか。

レディ・ムラサキの ティーパーティ

毬矢 純理／著
森山 恵／著

講談社

怪異・都市伝説・オカルトの世界にどっぷり浸かれる一冊。メジャーな口裂け女からタマゴばばあ(！？)まで、色んな怪異を網羅したウルトラな、オカルトマニア必携の書です。副読本とセットで読んでもたのしそうです。

いけない

道尾 秀介／著

文藝春秋

霊長類学研究者の山極寿一さんが“ゴリラの世界”に入って体感した、ゴリラの生き方と言葉を持った人間の生き方を対比するような内容の本。普段とはちょっと異なる哲学的な視点で私たちの生活を見直すきっかけとなるかも。

らせん訳（注）をすることで源氏物語の解像度があがり、あらたな考察も生まれた。源氏物語を読んでいなくても英語と古文によって解き明かされる新しい物語は現代と平安をつなってくれる。

注：著者の毬矢純理さん・森山恵さん姉妹が「源氏物語」英訳本来日本語に翻訳するにあたって開発した「らせん訳」という手法。

日本現代怪異事典 日本現代怪異事典 続 日本現代怪異事典副読本

朝里 樹／著

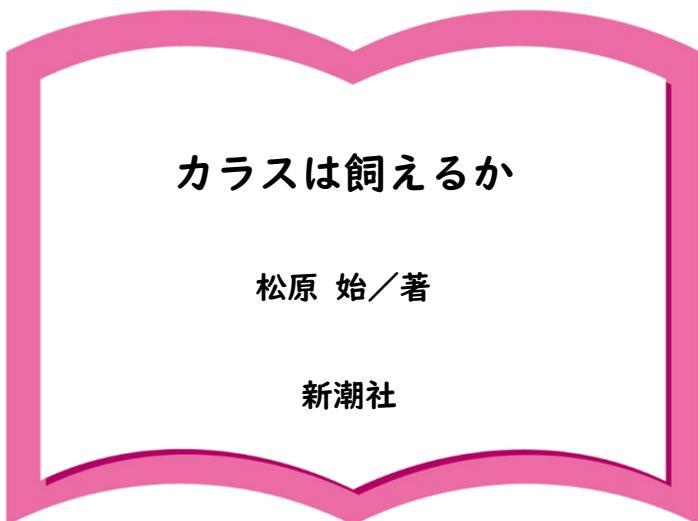
笠間書院

この本はある地域で起こる、殺人事件を描いています。そこまでは、普通のミステリーと変わりませんが、この本のおもしろいところは、各章の最後に提示される「一枚の写真」にあります。章の話を読んで、最後の写真で明かされる事件の真相に気づく、体験型ミステリーです。

ゴリラからの警告

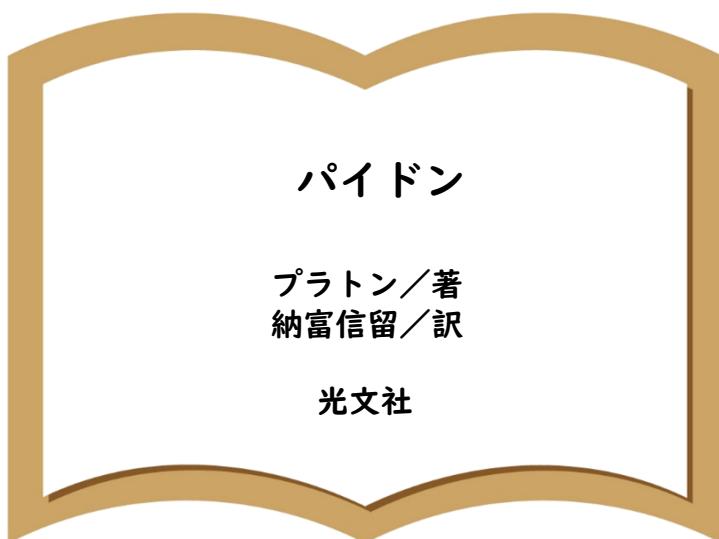
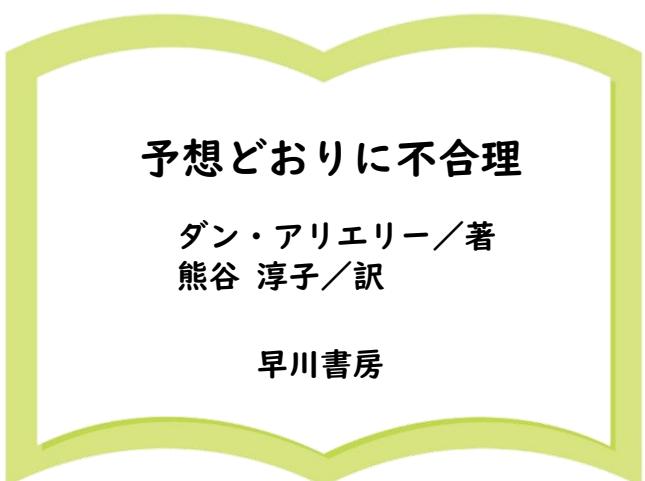
山極 寿一／著

毎日新聞出版

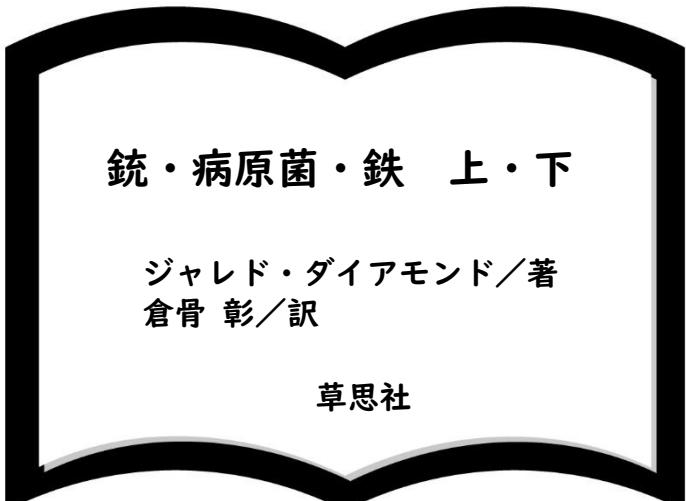


なぜ私たちが不合理な選択をしているのかが分かりやすくまとめられていて良い。実験結果も書かれているのでおもしろい。

カラスをこよなく愛す筆者が、カラスについて熱く語る！カラス好きによる、カラス好きのための実用書。カラスの肉は食えるのか?? カラスは飼えるか?? なぜか気になってしまふ身近なアイツのすべてを知れる。



西洋哲学の原点である「ソクラテスの弁明」のその後が読める。ソクラテスの最後の日、獄中での弟子たちとの会話で描いた傑作。私たちが“善く生きる”とは？



西洋が世界に範囲を広げていった理由を、地理的・歴史的に分析した本です。特にインカ帝国のアタワルパの話が面白いです。

ソロモンの指環

コンラート・ローレンツ／著
日高 敏隆／訳

早川書房

ノーベル賞も受賞した動物行動学の巨匠コンラート・ローレンツが様々な野生動物を飼い放している自宅での出来事をもとに動物について語り尽くす！本当におもしろいです。

生物学にあまり興味のなかった僕も、これを読んで、生物学がおもしろくなってきた。生物のあらゆる現象は体積、表面積が関わっていること、そして人間がいかに特異な生物であるかが、よくわかる。

河童が覗いたヨーロッパ

妹尾 河童／著
新潮社

ゾウの時間ネズミの時間

本川 達雄／著
中央公論新社

中が全部手書き！→文も絵も。著者がおとずれたヨーロッパの土地について、日本と比べて新鮮だったことが細かく書かれている。

坂本勇人の

バッティングバイブル
坂本 勇人／著

ベースボール・マガジン社

全ての野球少年が読むべき本。レジェンドの持つ引き出しを知ることができ、これからの練習がより有意義なものになる。

ものがたりの家

吉田 誠治／著

パイインターナショナル

世界で知られている思考実験を学べる。

眺めているだけで想像が膨らんでわくわくします！息抜きにおすすめです。

100 の思考実験

ジュリアン・バジーニ／著

向井 和美／訳

紀伊國屋書店

先生はえらい

内田 樹／著

筑摩書房

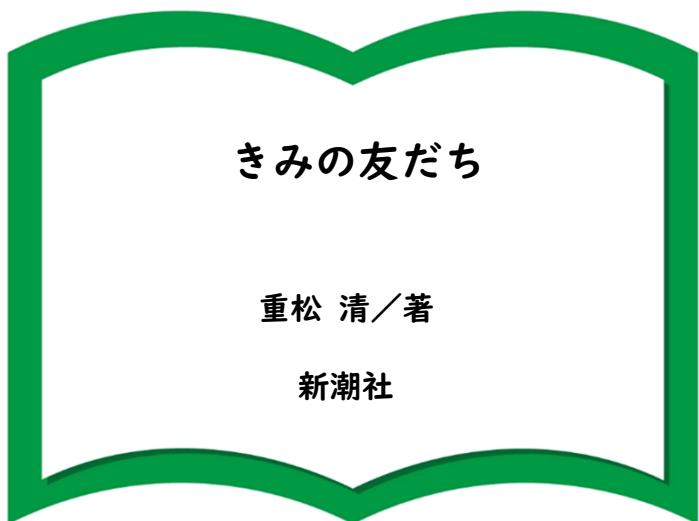
自分らしく生きることの大切さを知ることができて、とても良い本です！登場人物の言葉が心に残るので、また読みたいと思える本です。

学ぶとはどういうことか、先生とはどういう存在か、話し合いとは何か。学びにおける主体性とは何かを考えるきっかけになります！

夜が明けたら、 いちばんに君に会いにいく

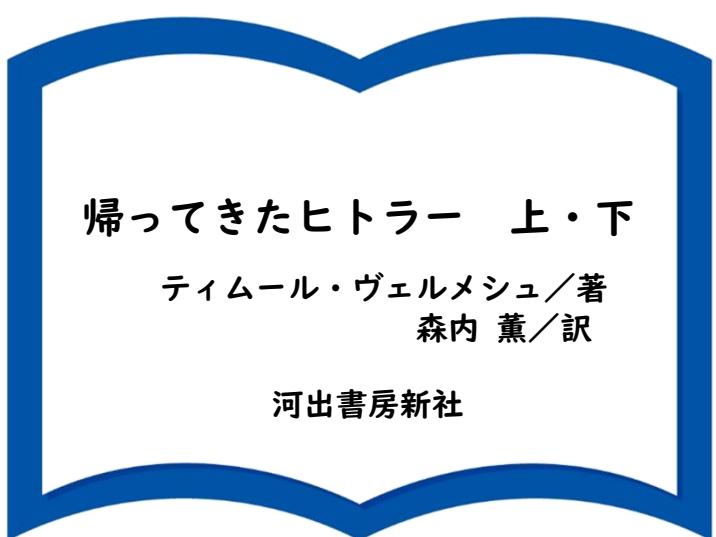
汐見 夏衛／著

スタート出版



タイムスリップしてきた独裁者というテーマでありながら、ストーリーが分かりやすくて読みやすい。シリアスな作風ではないが、読者に問題提起をする名作。

家族や友だちなど日常生活の中で深く関わってくる存在。中高生などの人間関係がリアルに描かれており、友だちについて深く考えさせられる本です。



中学生の女の子の不安定な心情がすごく生きなくて、読んでいて心を抉(えぐ)られるような作品です。

面白い！シナリオを作らない人も楽しめ、様々な状況で役に立つ考え方も知れる。

